

◆奨励賞◆

感謝

大住 中学校 三年

久保田 奏

介護と聞くとどんな事が頭にうかびますか、子育てと聞くとどんな事が思いうかびますか。

私が小三の頃にこの質問をされたら、見守るだけと思ったことでしょう。ですが今は大変という二文字に表せないほどの苦ろうがあると考えます。

なぜかというと、それは私が小四の頃に父の両親と一緒に暮らすことになったときに家の外で働く父の代わりに家の事をする母の姿を見たからです。母は糖尿病や高血圧を患いながらも祖父母のご飯、洗濯、見守りなどをします。祖父母は認知症という病気でよくトイレをよごしてしまったり、ヒステリックになってしまったり、イライラを母にぶつけたりしたことがあります。そんな中、母はおこらずに祖父母をおちつかせるのです。私はそんな母を見てかつこいいなと思います。それと同時にになにか母の負担をかるくできないかと考えます。母は、介護もしながら私たち兄弟の世話もしてくれます。自分も病を患ってつらいだろうに嫌な顔せず私たちと一緒にいる時間をつくってくれるし、私が困っていたら何でも聞きアドバイスをくれる、私はそんな母を尊敬してしまいます。だから私は母の負担を少しでもなくすために母の手伝いを始めることにしました。ごはんをたくなどから始め、祖母の朝食作りや弟の世話などをしました。ですが、中学校に上がる頃に勉強も難しくなって手伝いがめんどくさいと思ってしまう

ことがありました。ですがやめようとしらない理由は、母や父からの感謝の言葉があるからだと思います。

私がこの作文で主張したい事は、感謝の言葉は人のやる気をひきたてるものだと考え、今、戦争やいろいろなことで大変な世界でも感謝の言葉を忘れないようにしていつてほしいと思うことです。